



Title	「すべての人に健康を」：UHCの実現にむけて
Author(s)	関，淳一；鈴木，野々香
Citation	目で見えるWHO. 2017, 64, p. 27-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

●第 7 回 jaih-s との共催企画フォーラム 開催報告

「すべての人に健康を」～UHCの実現にむけて～

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)とは「国際保健医療に関わる人材育成」に取り組んでいる学生団体です。全国の国際保健医療に関心を持つ様々な分野の学生に対して、幅広い情報や機会の提供を行い、将来、世界で活躍する人材を育成することで日本及び国際社会への貢献を目指す活動は、国内外の健康につながる人材の育成を事業目的の一つに掲げる公益社団法人日本 WHO 協会の考えと一致するものです。

この趣旨を踏まえて、第 7 回目となる共催企画フォーラムを 2017 年 9 月 30 日に大阪中央区民センターで一般社団法人大阪薬業クラブの助成も頂き「すべての人に健康を」～UHCの実現にむけて～をテーマとして開催いたしました。



●開会の挨拶 (公社) 日本 WHO 協会理事長 関 淳一

日本国際保健医療学会・学生部会(jaih-s)と私共の公益社団法人日本 WHO 協会との共催によるフォーラムも今年で 7 回目迎えることになりました。毎年、jaih-s の方々の企画・運営の能力は素晴らしく、この共催企画を今日まで発展的に継続させる上での大きな力であったと思います。

今回は、まずケニア保健省で UHC アドバイザーを勤められた渡辺学先生と保健医療 NGO シェア代表理事の本田徹先生のご講演をお聞きします。大変お忙しい中、jaih-s の人達の強い希望にお応え頂き、講師をお引き受け頂きましたお二人の先生方に主催者を代表しまして心から厚くお礼申し上げます。

ご出席の皆様が、今日は日頃の大学等での講義等では得られない何かを得られれば、主催者として何よりの喜びであります。最後まで頑張ってください。

●jaih-s 代表の挨拶 jaih-s12 期代表 鈴木野々香

jaih-s は「国際保健医療に関わる人材育成」を目標に 2005 年に設立された学生団体です。国際保健の学習機会を地域格差なく学生に届け、更に多くの学生が将来国際保健の分野で活躍することを目指し、全国各地での勉強会や合宿などを開催して参りました。

今回は、国連が定めた SDGs のゴール 3-8 である「UHC(Universal Health Coverage)がテーマです。UHC とは「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能

回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ことを意味します。2015 年の WHO と世界銀行グループの報告書「ユニバーサルヘルスカバレッジ達成への軌跡」によると、4 億人が基本的な保健サービスを利用できず、低・中所得国の人口の 6%が医療費負担により極度の貧困に陥ったり、さらに貧困が深刻化したりする恐れがあるとされています。この現状を打破するために、UHC を実現させる必要があります。

本企画では、ケニア保健省で UHC アドバイザーとしてご活躍されていた渡辺学先生と、2014 年にプライマリヘルスケアと UHC に関して Global health check に寄稿された本田徹先生を講師としてお迎えし、「UHC 実現」の切り口から国際保健を考えて参ります。また、参加された皆様自身が将来「UHC の達成」にどのように関わっていくか、政策や財政などの国や政府を対象とした「上からのアプローチ」と、地域の人々や個人を対象とした「草の根的アプローチ」両方の視点から考えることで、将来の国際保健分野における自身のキャリアを具体的にイメージできる機会としていただけましたら幸いです。ぜひ、先生方に沢山質問し、異なる背景を持った学生同士で大いに語り合うことによって、本企画で国際保健を深く学び、将来共に働く仲間を得る機会としていただけましたら嬉しく思います。